

IDCJ50周年記念事業—シリーズ研究

研究テーマ：SDGsに向けた取り組み

研究タイトル：

SDGsインパクト評価手法の分析  
—民間企業によるSDGs取り組み効果測定—

研究責任者：三井久明

メンバー：長谷川祐輔、松田奈名子

2021年12月24日

# 研究の意義と狙い

- 2015年のSDGsの採択から5年が経過し、国連はあらゆるステークホルダーに行動の加速化を求めている。民間企業もSDGsは慈善的活動テーマではなく、自のビジネスを持続させる指針と見なすようになり、事業活動を通じたSDGsへの取り組みを進めている。
- 近年はこうした取り組みの貢献の度合いを、どのように測定するかに関心が集まっている。
- 本研究では、SDGsへの貢献度、インパクトを測る手法の特徴や短所・長所を整理し、どういったケースでどの手法を用いるべきか示す指針を提示することを目的とする。



# 構成

1. SDGsと日本社会の認識
2. インパクト測定の枠組み
3. インパクト測定の事例
4. 研究成果の報告と普及



# 1. SDGsと日本社会の認識

# SDGsとは

- 2015年の国連総会で合意された国際開発目標
- 17のゴール、169のターゲットで構成される。
- 各国政府は2030年までに目標を達成することを求められる。
- 国連のHLPF（ハイレベル政治フォーラム）の場で、毎年7月に各国政府が進捗状況を報告している。



# SDGsへの日本社会の認識 1

- 2017年ごろまで：国際協力の枠組み
  - MDGsの後継として外務省が啓蒙活動に尽力した。
  - 第一回のHLPFでも日本の国際協力の取り組みがアピールされた。



出所：<https://www.youtube.com/watch?v=H5I9RHeATI0>

## SDGsへの日本社会の認識 2

- 2018年ごろから：「共有価値の創造」への関心
  - 国際機関、政府だけでなく民間ビジネスもSDGsに取り組むことが必要と意識された。
    - 地球温暖化対策、資源の再活用、働き方改革など
  - 企業が慈善活動ではなく営利目的の事業活動を通じてSDGsに取り組むことが推奨された。
    - 共有価値の創造：CSV (creating shared value)
    - 三方良し：売り手よし、買い手よし、世間よし
    - Society 5.0 for SDGs (経団連)
- ESG投資の拡大
  - 非財務業績に注目した投資アプローチ

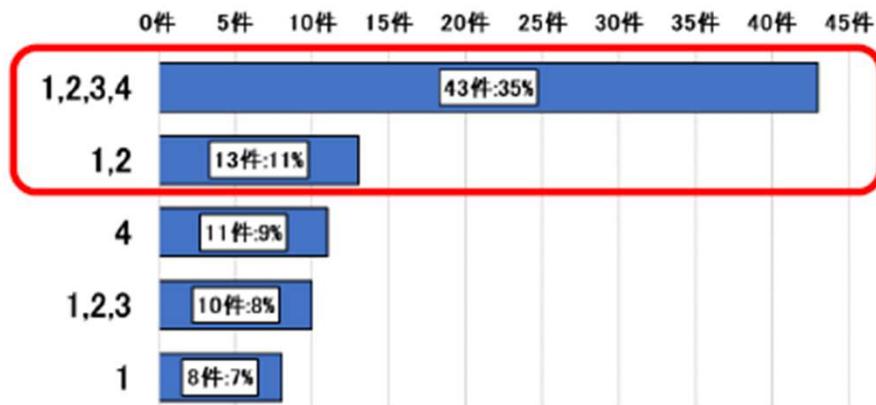
# SDGsへの日本社会の認識 3

- 2019年ごろから：持続的ビジネス戦略構築
  - ビジネスが持続的に成長するためには、SDGsへの取り組みが不可欠と広く認識されるようになった。
    - SDGsに無関心→長期的リスクや機会を考慮せず→持続しない
  - 取引先からの要請
    - バリューチェーン全体でカーボンニュートラルを目指す動き
    - バリューチェーン上の人権侵害（現代奴隸）への懸念
  - サステイナブルファイナンス
    - 責任投資原則、責任銀行原則
  - 社会の注目
    - エシカル消費、就活

# SDGsへの日本社会の認識 4

- 2020年ごろから：SDGs取り組みの効果測定への関心
  - SDGsへの取組みを加速するため、関係者間で、取組みの成果や達成度の測定について基本的な共通理解を持つことが不可欠
  - SDGsウォッショの懸念

図：評価のために実施している項目（2021年 経団連調査）



1. 評価のために、事業で達成しようとするアウトカムの特定を行った
2. 特定したアウトカムに対して、測定する指標を設定した
3. 指標を活用し、実際に測定・分析を行った
4. 分析結果を報告・公表した

出所：「SDGsへの取組みの測定・評価に関する現状と課題」2021年、経団連

# 効果測定の課題

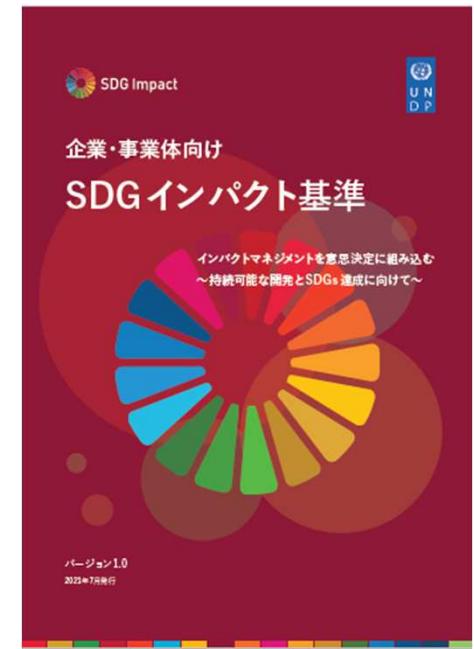
- 各社の試行錯誤
  - SDGsへの取組みの測定について、国際的に認められた基準となるような手法が確立していない中、各社が試行錯誤している。
- 使いやすいツールの開発と利用
  - 基本的原則を踏まえながら、多様な利用者のニーズに合致した、インパクト評価に関する様々な手法・ツールが開発され、共有ナレッジとして利用可能な形で提供されてくことが望ましい。
  - その際には、理論的な正しさや必要な精度を満たすことに加えて、実務上の負荷やコストとのバランスがとれたものであることが特に重要である。（経団連）



## 2. インパクト測定の枠組み

# SDGインパクト基準 (UNDP)

- UNDPが主導して開発したビジネスユーザー向けの指針。「企業・事業体」向け、「PEファンド」向け、「債券」向けの三つがあり。
- 投資家や事業者がインパクトの管理と意思決定に重点を置きながらSDGsに貢献できる実践的なツール。
- 4つの要素（戦略、アプローチ、透明性、ガバナンス）から構成される。
- 同基準に基づいて、指定された第三者機関によって認証を行う制度（「SDGインパクトシール」）の導入を予定している。
- インパクト評価の結果（パフォーマンス認証）ではなく、あくまでもプロセスの認証になっている。



# IMP (Impact Management Project)



- ・事業や投資の分野でのインパクト・マネジメントに関する国際イニシアチブ
- ・UNDP、IFC、OECDの他、国連責任投資原則（PRI）、GRI、GIIN、GSG等の団体が参加している。
- ・企業がインパクトに関する目標を設定し、パフォーマンスを管理する方法についての実用的なガイダンスを提供する。

なぜ企業はインパクトを管理するか？

企業はどのようにそのインパクトを評価するか？

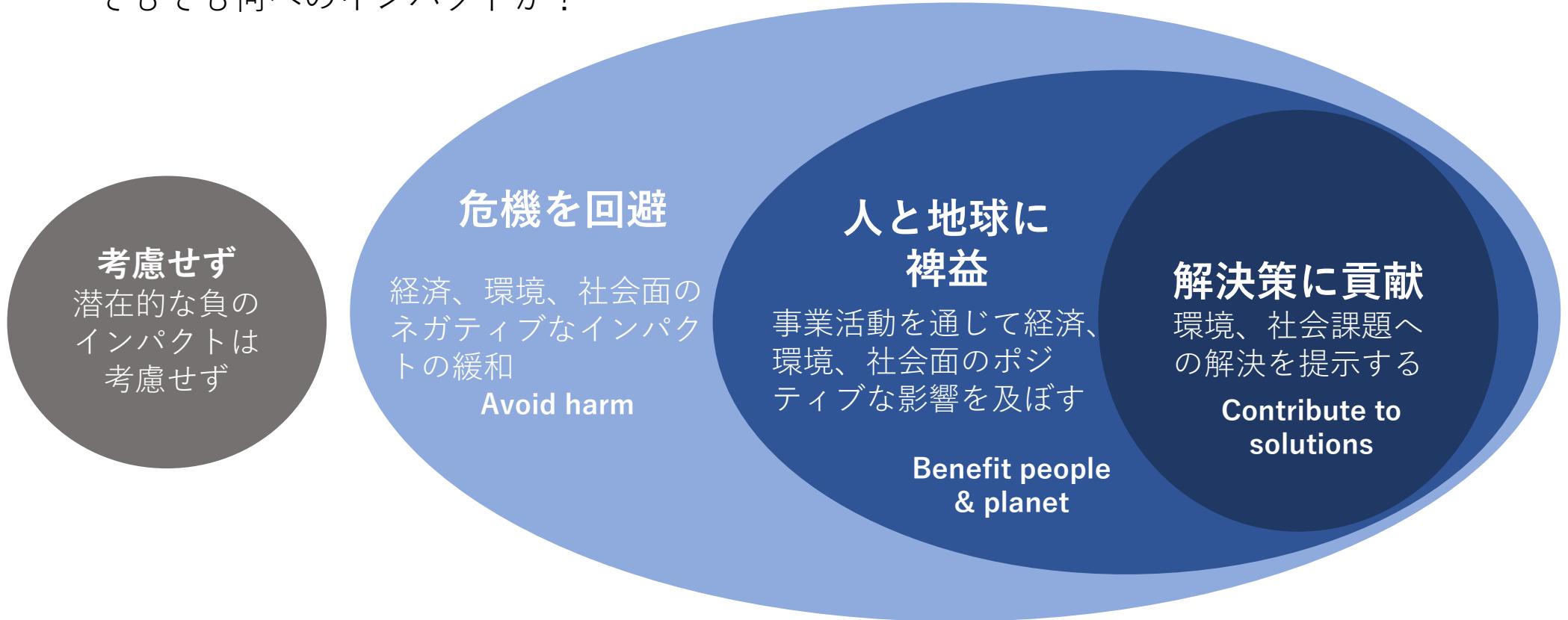
企業はインパクトのパフォーマンデータをどのように比較するか？

企業はインパクトのパフォーマンスのデータを使用してどのように目標を設定するか？

企業はどのようにその影響を伝えるか？

# IMPによるインパクトの分類

そもそも何へのインパクトか？

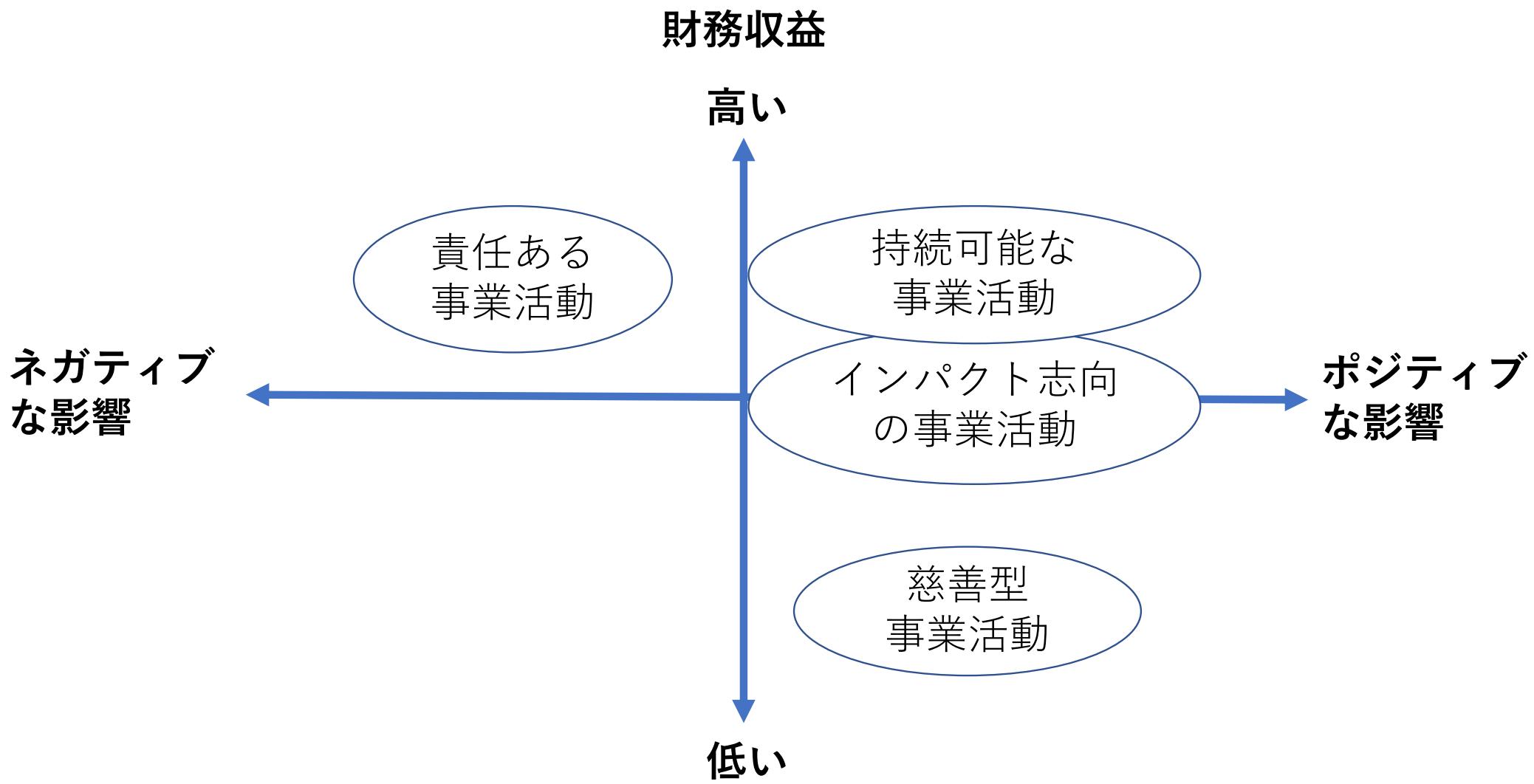


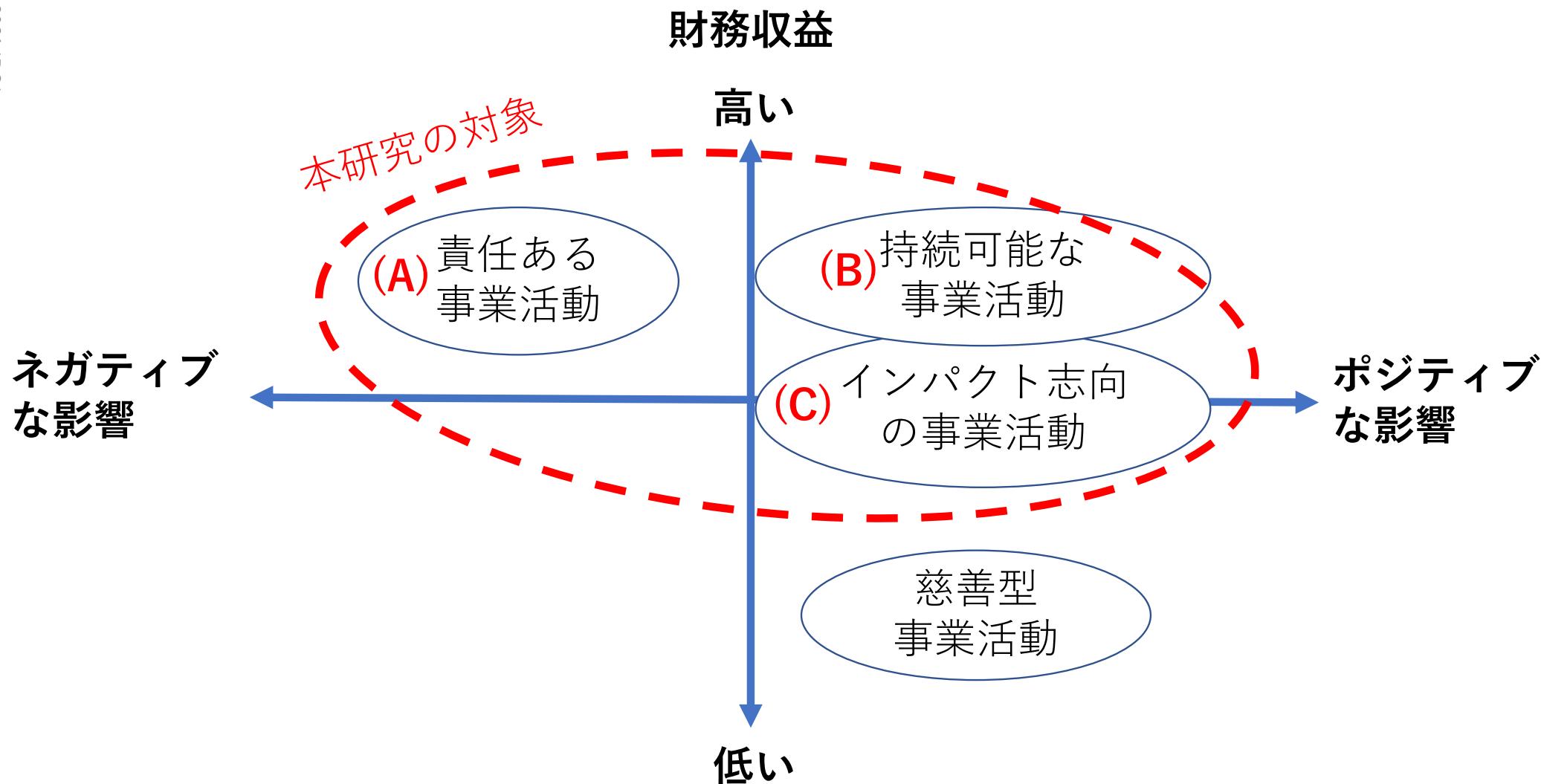
出所：Impact Management Project

<https://impactmanagementproject.com/impact-management/how-enterprises-manage-impact/>

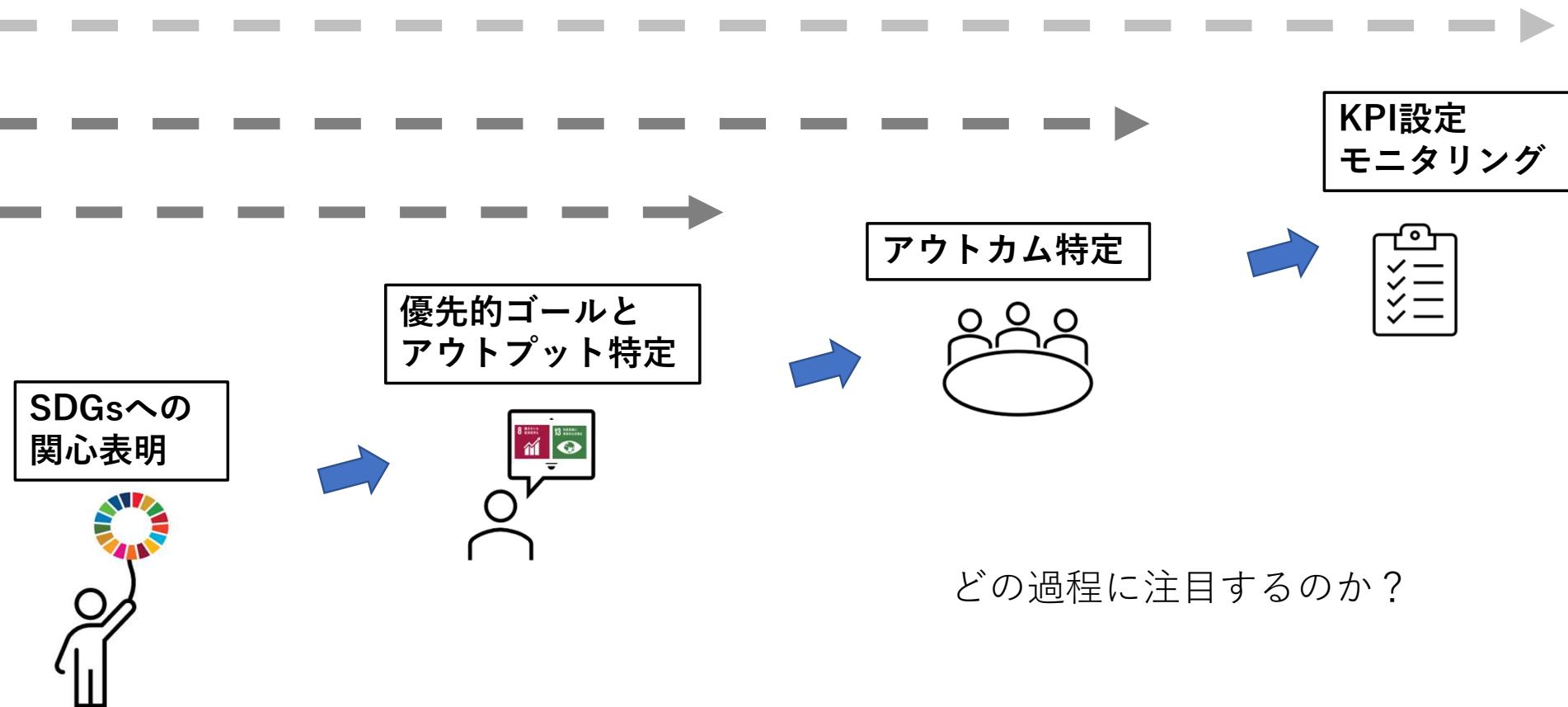
| 考慮せず  | 危機を回避<br>(A) Avoid harm   | 人と地球に裨益<br>(B) Benefit people & planet   | 解決策に貢献<br>(C) Contribute to solutions  |   |
|---|---|--|--|---|
| 従来型事業活動   | 責任ある事業活動  | 持続可能な事業活動  | インパクト志向の事業活動   |   |
| 経済的価値のみを追求し、事業活動を通じた負のインパクト等は考慮しない。サステナビリティ重視の時代には持続しない。<br>【例】石炭火力発電、強制労働利用の製造業等 | 「責任ある企業行動(OECD)」をとり、事業活動の環境や社会への負の影響を緩和する。<br>【例】野生動物の生息域保全、脱炭素化、適切な賃金、人権デューデリジェンス等 | 社会ニーズに対応することで経済的価値と社会的価値をともに創造する。共有価値の創造。<br>【例】バイオ発電、節水／節電型製品、調達先支援を通じた地域経済振興等。 | 特定の対象者の経済、環境、社会面の課題に対し、事業活動を通じて解決策を提供する。<br>【例】簡易型トイレ、マラリア防除用蚊帳、栄養強化離乳食、金融包摂等。 | 事業活動とは別の手段で、特定の対象者の経済、環境、社会面の課題に解決策を提供する。<br>【例】砂漠の緑化、学校への出前講義、清掃奉仕 |

注：事業活動の分類は「南アフリカ SDG投資家マップ 2020」UNDPを参考

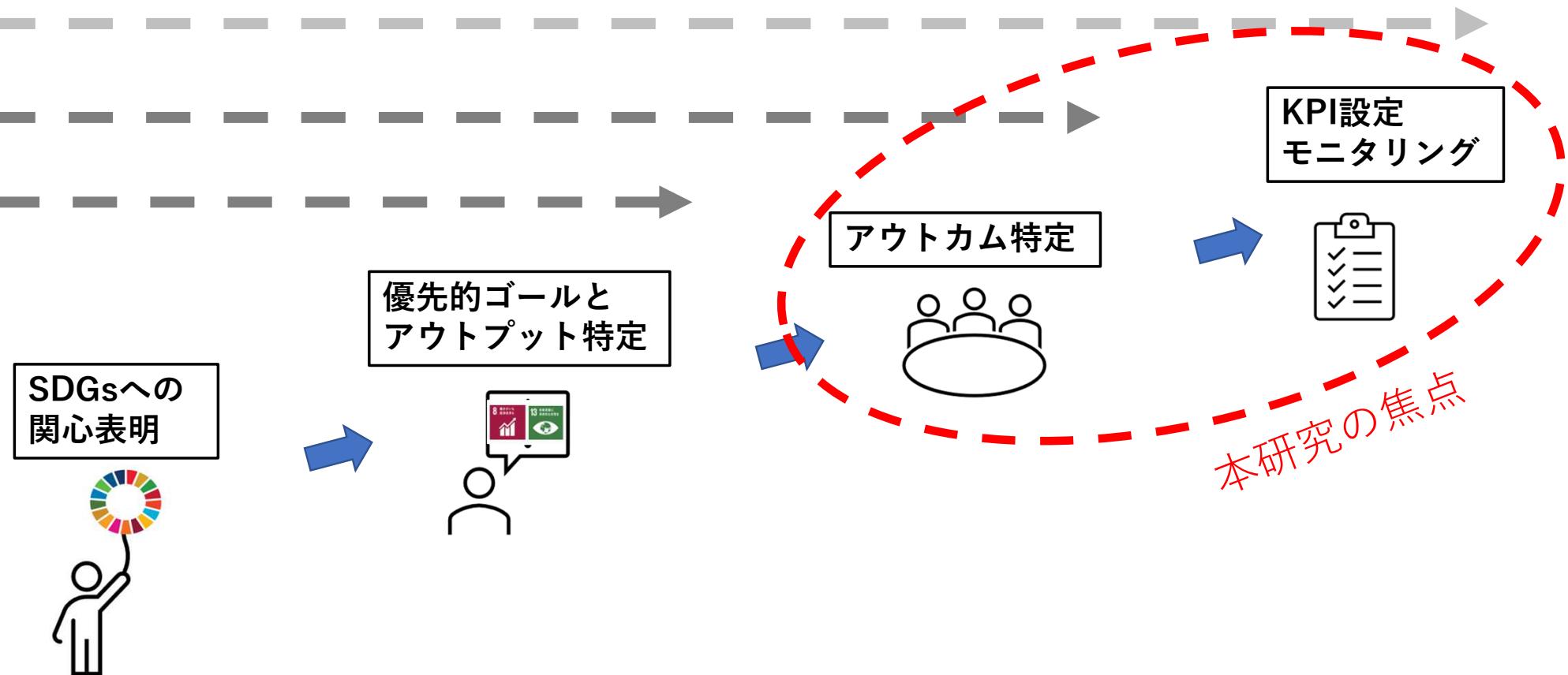




## SDGsインパクト測定までのステップ



## SDGsインパクト測定までのステップ

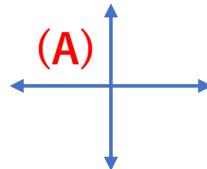




### 3.インパクトの測定事例

組織名：JFE

事業／活動：鉄鋼事業からの温室効果ガス排出量削減



SDGs 13.2：気候変動対策を政策、戦略及び計画に盛り込む。

|        |  | 指標     | 実績値  |
|--------|--|--------|------|
| アウトプット | カーボンニュートラル推進<br>カーボンリサイクル高炉技術開発<br>水素還元製鉄向け原料処理技術の開発 | n.a.   | n.a. |
| アウトカム  | 鉄鋼事業でのCO2排出削減  | CO2排出量 | 次頁   |

出所： JFEグループ CSR報告書2020

[https://www.jfe-holdings.co.jp/csr/pdf/csr\\_2021\\_j.pdf](https://www.jfe-holdings.co.jp/csr/pdf/csr_2021_j.pdf)

## ■ JFEグループのCO<sub>2</sub>排出量推移

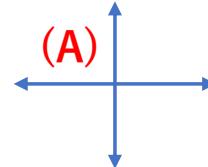


出所： JFEグループ CSR報告書2021

[https://www.jfe-holdings.co.jp/csr/pdf/csr\\_2021\\_j.pdf](https://www.jfe-holdings.co.jp/csr/pdf/csr_2021_j.pdf)

組織名：ヤマハ発動機

事業／活動：交通事故低減のための教育



SDGs 3.6：2020年までに、世界の道路交通事故による死傷者を半減させる。

|        |                             | 指標                | 実績値(2020年)                |
|--------|-----------------------------|-------------------|---------------------------|
| アウトプット | 安全運転教育機会（ヤマハライディングアカデミー）の設置 | 受講者数<br>トレーナー設置国数 | 3,353回開催<br>6万7千人<br>15ヶ国 |
| アウトカム  | 交通事故による死亡者数<br>低減*          | n.a.              | n.a.                      |

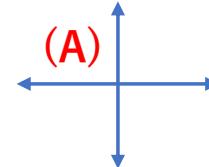
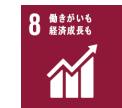
\*「2030年の目指す姿」として表記

出所：ヤマハ発動機サステナビリティ2021 ウェブサイト

[https://global.yamaha-motor.com/jp/profile/csr/download/pdf/Sustainability-2021\\_JP.pdf?20210917](https://global.yamaha-motor.com/jp/profile/csr/download/pdf/Sustainability-2021_JP.pdf?20210917)

組織名：リバーホールディング

事業／活動：安全・安心な職場環境づくりの推進



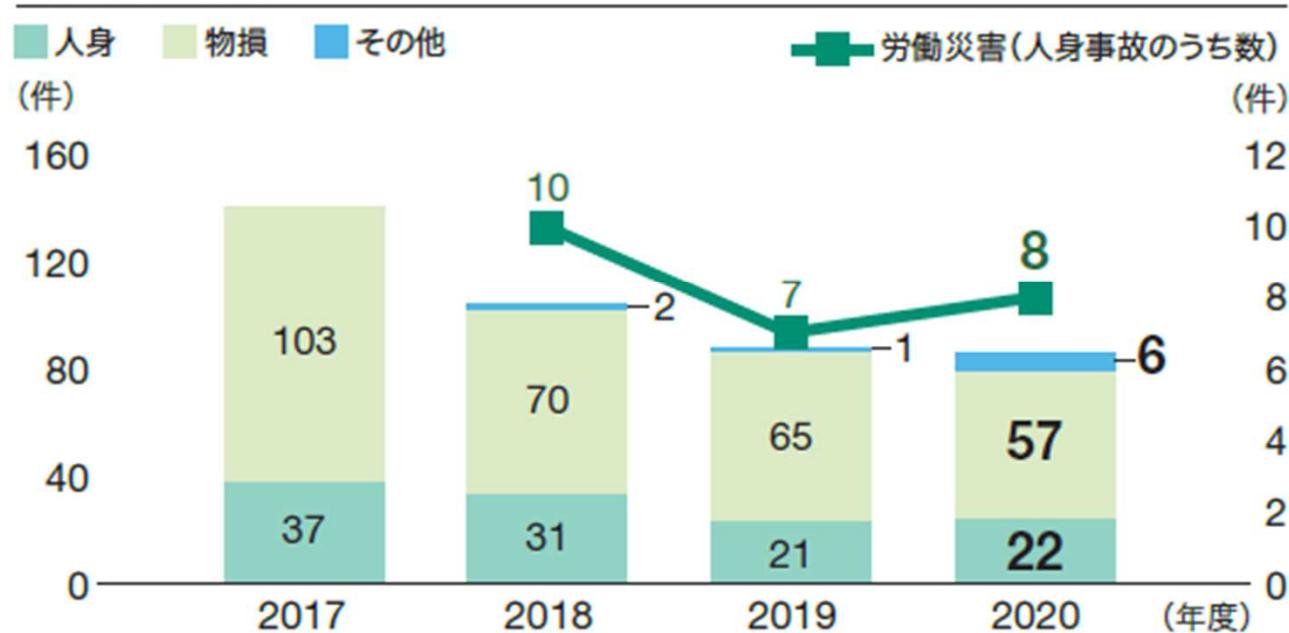
SDGs 8.8：労働者の権利を保護し、安全・安心に働くようにする。

|        |  | 指標  | 実績値(2020年)  |
|--------|--|-----|---|
| アウトプット | 火災再発防止策の徹底<br>重機と作業員の接触事故<br>防止対策の強化<br>高所転落災害の防止<br>安全衛生教育の強化<br>3S（整理・整頓・清掃）の習慣化 | n.a | 中央労働災害防止協会の講師を招いて全社安全教育を開催<br>天井クレーン点検出張講習会<br>事故防止優良組合員特別表彰 受賞 |
| アウトカム  | 従業員の安全性の確保   | 事故数 | 労働災害は8件（前年より1件増加）   |

出所：サステナビリティレポート 2021年

<https://www.re-ver.co.jp/sustainability/pdf/report2021.pdf>

## 事故数の推移

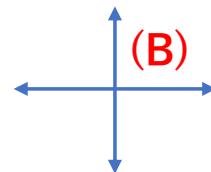


出所：サステナビリティレポート 2021年

<https://www.re-ver.co.jp/sustainability/pdf/report2021.pdf>

組織名：花王

事業／活動：節水型洗剤の開発と普及



SDGs6.4：水不足に対処し、水不足に悩む人の数を大幅に減らす。

|        |             | 指標         | 実績値(2020年)   |
|--------|-------------|------------|--|
| アウトプット | 節水型製品の生産・販売 | n.a        | n.a  |
| アウトカム  | 水保全         | 製品使用時の水使用量 | 製品使用時の水使用量は38百万m <sup>3</sup> 増加、原単位削減率は前年より3ポイント悪化の26%削減となった。 |

出所：花王サステナビリティ データブック 2021

<https://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2021-all.pdf>



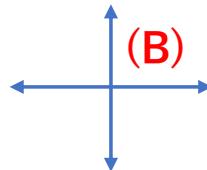
主に日本国内の生活者向け製品1個当たりの製品使用時の水消費量に、当該製品の年間の売り上げ個数を乗じて算定した値を集計したもの

出所：花王サステナビリティ データブック 2021

<https://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2021-all.pdf>

組織名：キリングループ<sup>®</sup>

事業／活動：スリランカフレンドシッププロジェクト



SDGs2.3 小規模食料生産者の農業生産性と所得を倍増させる。

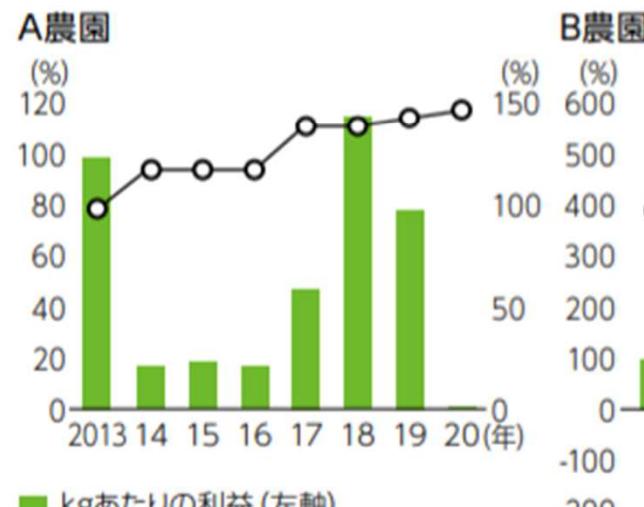
|        |                                 | 指標                              | 実績値(2020年)                    |
|--------|---------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|
| アウトプット | 紅茶調達農園のレインフォーレスト・アライアンス認証取得支援   | 支援対象の小農園数                       | 2,120農園                       |
| アウトカム  | 原料農産物生産地の収益向上、農園労働者の給与向上、衛生環境向上 | スリランカ茶農園の収益性、労働者の賃金上昇率、衛生環境改善状況 | 認証取得農園（サンプル）において収益性と衛生環境の改善あり |

出所：キリングループ環境報告書 2021年

<https://www.kirinholdings.com/jp/investors/files/pdf/environmental2021.pdf>

## レインフォレスト・アライアンス認証取得支援での社会的インパクト

## ■ 収益性 kg当たりの利益増加とともに、労働者の給料も上昇



■ kgあたりの利益 (左軸)

●- 労働者の給料 (右軸)

※ いずれも2013年を100として指数化

## ■ 衛生環境 農園の総人口が微増傾向にある中で、疾患が大幅に減少



※ A農園は2014年に、B農園は2015年に認証を取得しています。

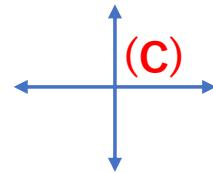


出所：キリングループ環境報告書 2021年

<https://www.kirinholdings.com/jp/investors/files/pdf/environmental2021.pdf>

組織名：ヤマハ発動機

事業／活動：低速モビリティサービスの提供



SDGs11.2: 交通の安全性改善により、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する。

|        |                                   | 指標     | 実績値(2020年)         |
|--------|-----------------------------------|--------|--------------------|
| アウトプット | 電動アシスト自転車の供給                      | 実証実験件数 | 国内18か所<br>合計100台納入 |
| アウトカム  | 国内免許返納高齢者の代替モビリティとして電動アシスト自転車の定着* | n.a.   | n.a.               |

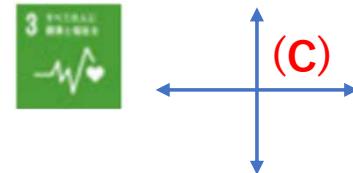
\* 「2030年の目指す姿」として表記

出所：ヤマハ発動機サステナビリティ2021 ウェブサイト

<https://global.yamaha-motor.com/jp/profile/csr/materiality-kpi/#sec-02>

組織名：住友化学

事業／活動：熱帯感染症対策資材の提供による感染症  
予防への貢献



SDGs3.3：重篤な伝染病を根絶し、その他の感染症に対処する。

|        |                 | 指標   | 実績値                |
|--------|-----------------|--|--------------------|
| アウトプット | マラリア防除用蚊帳の生産・販売 | 生産量  | 年間約3,000万張り（タンザニア） |
| アウトカム  | 熱帯感染症の防止        | 各製品の効果の持続期間中、当該製品を使用することによって、1年間に熱帯感染症から守られる人数 | 年間約400万人           |

出所：住友化学ウェブサイト

[https://www.sumitomo-chem.co.jp/sustainability/social\\_contributions/olysetnet/](https://www.sumitomo-chem.co.jp/sustainability/social_contributions/olysetnet/)



## 4. 研究成果の報告と活用

# 報告書の作成

- 研究成果を取りまとめた報告書を作成する。

## 【目次構成案】

1. SDGsの効果測定の全体像
2. SDGsへの取組みの効果測定の現状と課題
3. SDGsへの取組の効果測定手法
  - 基本的な考え方
  - フレームワーク
  - ツール

別添：検索データベースの活用法

# 検索データベースの構築

- 企業がSDGs取り組みの効果測定を検討するにあたり、過去の好事例を効率的に検索できるデータベースを構築する。

|         |   |
|---------|---|
| キーワード検索 |  |
|---------|---|

SDGs  
セクター  
地域  
受益者群  
その他

終わり